

救護第18班 4月16日～4月23日 看護師・中山 香



石巻に着いたら道路の両側は瓦礫の山で、川には何台も車が沈んでいたり積み重なってたり、今まで見たこともない景色が広がっていて、ショックを受けました。



救護活動では、瓦礫の片づけで釘が刺さったとかガラスで指を切ったとか、津波が運んできた泥やチリが舞っていて目がかゆくなったり咽喉の痛み、セキを訴える人が多かったようです。鳴瀬庁舎の診療所は1日に30～40人くらいの受診で、ある程度落ち着いてきている印象。慢性期の患者さんが多く、ストレスで不眠を訴える方もいました。子どもたちは表情がこわばっていて、緊張してるんだろうなと思いました。

地震のときに高台に登った方が、津波が押し寄せてくる様子や逃げる人、助けを求める声を聞いたのがすごく印象に残っているとおっしゃっていました。地元には地震が来たら高台に上る風習があったけれど、避難しなかった人もいたそうです。急斜面に最近建ったような家は残っていましたが、平地の工場や住宅などは被害を受けていました。避難所には瓦礫撤去作業の募集チラシが張ってありました。

派遣が終わった後、2日くらいは気持ちが高ぶってました。テレビで地震や津波の特集を見て、時々、涙があふれているときがありました。